

2018年2月11日 巻頭言

高校時代から今日までに何回礼拝に出席しただろうか？

60年間とすると、3240回ということになる。すると、讃美歌を4曲歌うと約1万3千曲(回)。キリスト教はよく歌う宗教と言えるでしょう。迫害の時代(ローマ帝国、キリシタン時代)も歌って艱難を乗り越えてきました。葬儀でも歌います。天地創造、万物を支配しておられる神をたたえるのです。

多くの人々が讃美歌で慰められ、励まされてきました。ナチス時代に生きたボンヘッファーは1945年4月、フロッセンビュルク強制収容所で処刑されましたが、その前年の讃美歌・新生讃美歌73番の2節において「たとい主から差し出される、杯は苦くても、恐れず感謝をこめて、愛する手から受けよう」と賛美します。徹底して困難、苦しみを受けた時も「主の手」を見つめています。恵まれた時代は、賛美も歌詞を深く味わって歌うよりも、メロディに流れていきます。

小松澤恵姉が指導して下さったように、歌詞を深く読みながら「主の手」を見る思いで賛美していきましょう。

(山下誠也)